

九条塔南だより

令和6年3月13日
京都市立九条塔南小学校
校長 奥野 利一



学校
教育目標

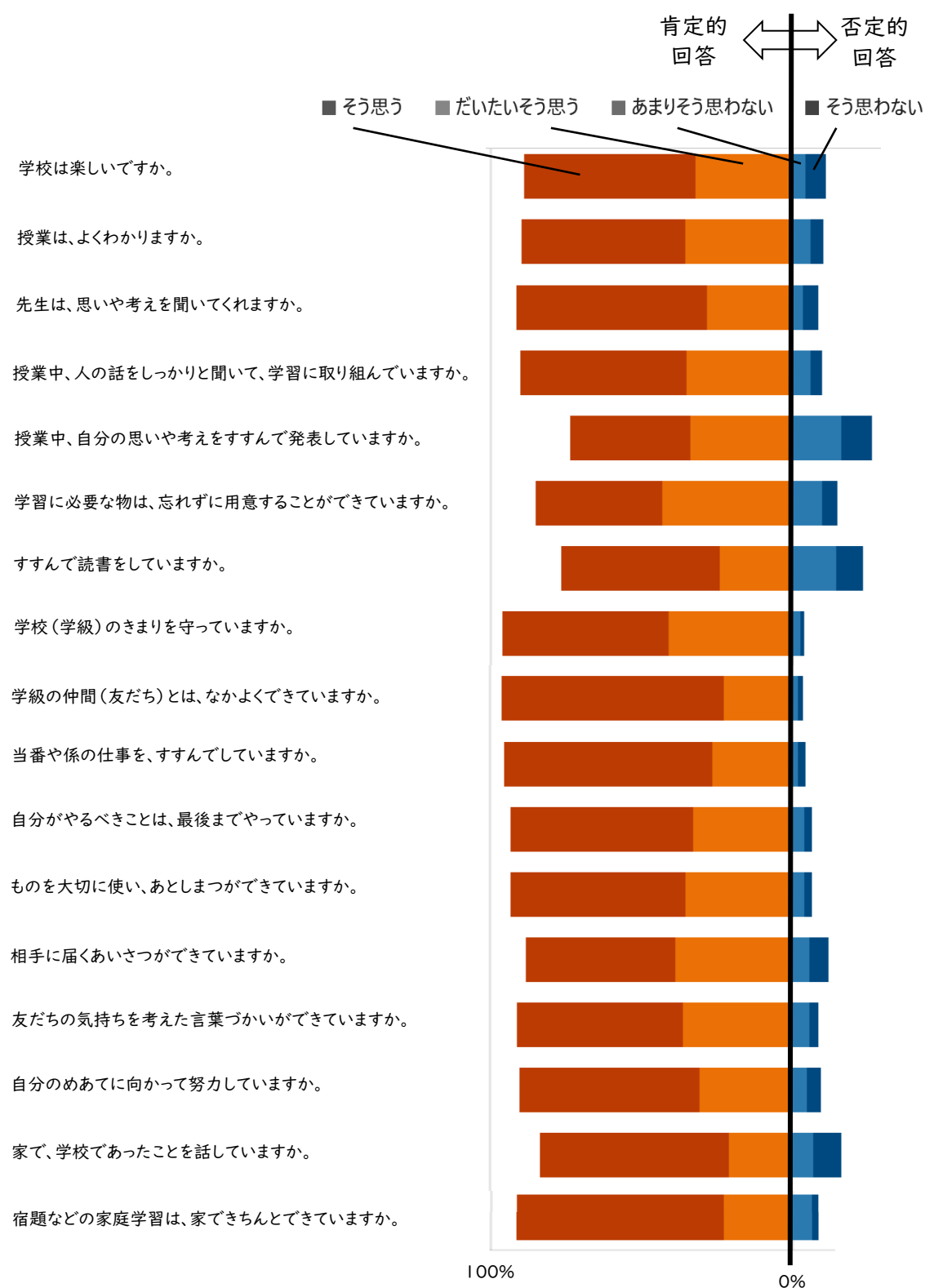
心豊かにたくましく 夢や希望に向かう子どもの育成
～つながろう つなげよう 九条塔南の子～

後期学校評価アンケートの集計結果をお知らせします。



12月に実施しました、「学校評価アンケート」にご協力をいただきありがとうございました。集計の結果をお知らせします。
学校評価は、学校家庭が相互に高め合い、よりよい学校づくりを目的として行っています。今年度は、学校教育目標の達成を目指し、「つながるための『柔軟性』『社会性』『つながりを広げる』『課題発見力』『実行力』『つながりを広げるための『主体性』『調整力』」の6つの力の育成をめざし、教育活動に取り組んでいます。児童・保護者へのアンケート結果をまとめましたので報告いたします。

学校評価集計結果【児童へのアンケート】 令和5年12月 オンライン回答 (Microsoft Forms) 形式にて実施

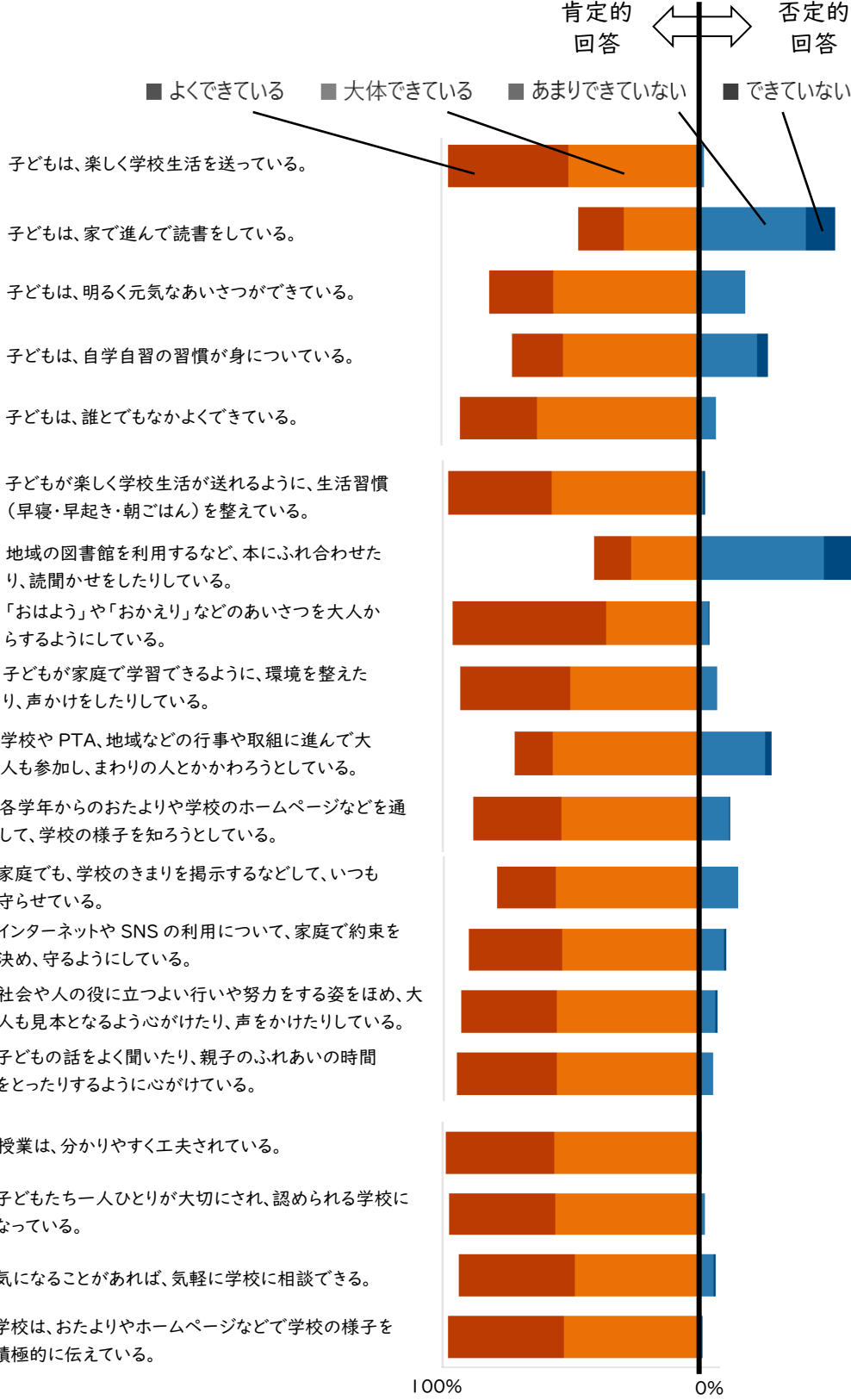


考察

【児童へのアンケートについて】

- ・「授業はよくわかる」「人の話をしっかりと聞き、学習に取り組んでいる」「宿題などの家庭学習は、家できちんとできている」「自分がやるべきことは、最後までやっている」の項目について、高い肯定的な意見が出ています。多くの児童が高い学習意欲をもって授業に臨み、家庭学習などの課題についても最後までやり切ろうとする姿が見えています。一方で、「自分の思いや考えを進んで発表する」「進んで読書をする」の項目については、否定的な回答の割合が多く、本校の課題になっています。読書は、物語の世界に浸ったり、偉人の半生を追体験することで、想像力を高めたり、多様な表現に触れることで語彙力を高めることができ、知識を増やすだけではなく、表現力の向上にもつながります。朝のさわやかタイムなどを通して読書の時間を確保するとともに、GIGA 端末など、さまざまな ICT 機器も活用しながら、思いや考えを発表していく機会を設け、「伝える力」を磨いていきたいと思っています。
- ・「ものを大切に使い、後始末ができて」「相手に届く挨拶ができて」の項目が前期に比べてやや低下しています。全体的にゆるみが見られる結果となっています。どちらも、相手を意識することが重要であり、学校生活が続く中で、おざなりになってしまいがちな部分です。「相手を大切に思う」「次の人のことを考える」ことを徹底することで、相手への思いやりを育むことにもつながりますので、一つ一つの行動を大切に、規律ある姿を目指していきたいと思っています。

学校評価集計結果【保護者へのアンケート】 令和5年12月 オンライン回答 (Microsoft Forms) 形式にて実施



今回のアンケート回答率は約50%でした。保護者の皆様からより多くのご意見をいただき、学校運営に生かしてまいりたいと思いますので、今後もオンライン形式での実施となりますが、ご協力をお願いします。



考察 【保護者へのアンケートについて】

- ・ 前期に続き、「子どもが楽しく学校生活が送れるように、生活習慣を整えている」「『おはよう』や『おかえり』などのあいさつを大人からするようにしている」「子どもが家庭で学習できるように、環境を整えたり、声かけをしたりしている」「子どもの話をよく聞いたり、親子の触れ合いの時間を取ったりするように心がけている」の4つの項目について、ほとんどが肯定的な回答でした。子どもたちが規則正しく、規律ある生活を送れるようになるために、意識的に環境を整えてくださったり、子どもたちに声掛けをしてくださっている様子がうかがえます。「早寝・早起き・朝ごはん」という言葉があるように、規則正しい生活を送り、生活習慣を確立していくことは、子どもたちの健やかな発達や、学力の向上にもつながります。また、あいさつをはじめ、人と言葉を交わし、あたたかな気持ちを伝えあうことで、強い絆が生まれ、深い人間関係が形成されます。一方で、特に高学年になるにつれ、ネットゲームやSNSの利用などで生活習慣が乱れ、学習意欲が低下している様子が見られる児童もいます。生活習慣の乱れは学習の乱れだけではなく、心の乱れにもつながりますので、子どもたちが健やかに日々を送れるよう、今後もご支援をいただければありがたいです。
- ・ 新型コロナウイルス感染症が第5類に引き下げられ、多くの教育活動がコロナ禍前に戻して行えるようになった一年でした。自由記述欄では、運動会や参観・懇談などで子どもたちの頑張る姿を参観いただけたことについて、多くの皆様から肯定的なご意見をいただきました。一方で、今年度は新型コロナウイルス感染症に加え、インフルエンザなどの感染症も流行し、学級閉鎖となるクラスが相次ぎました。また、夏の猛暑もあり、学校行事や教育活動について、実施する時期や内容について見直す必要があるとのご意見もいただきました。熱中症対策、感染症対策は十分に行いながらも、ICT機器を活用するなど、子どもたちの力を伸ばす学習を継続していけるよう、取組の見直し等を進めてまいります。また、今年度より連絡システム「スクリレ」を活用しながら欠席連絡等を行ってまいりました。今後も、保護者の皆様と様々な媒体を活用しながら、連絡を細やかに取り、子どもの育ちを共に支えていけるようにしていきたいと思います。

学校関係者による評価

- ・ 感染症対策については、以前ほど神経質にならなくてよくなり、学びの機会を失わずに過ごせるようになったと思う。一方で、消毒スプレーの利用など、コロナ時期と比べると少し習慣が弱くなっているようにも感じる。そういった対策はインフルエンザにも有効だと思うので、コロナで学んだことを活かす時だと思う。
- ・ 3年間のコロナ禍により、カリキュラムが変わってしまったことで、保育園などとの交流の機会が減ってしまっている。インフルエンザなどの感染症対策は必要だと思うが、保幼小交流や地域とのかかわりという点でも、交流の機会を増やしてほしい。
- ・ 「見守り week」など、PTAとしての取組も進めている。しかし、共働きが増えている今、保護者も忙しくて参加が難しくなっていると感じる。PTA 活動全般を見直す時期ではないかと思う。